

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	0177600384		
法人名	有限会社ふれあい		
事業所名	グループホーム樽川ふれあいほうす		
所在地	石狩市樽川3条2丁目97番地 (電話) 0133-75-1167		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年3月12日	評価確定日	平成20年5月23日

【情報提供票より】(20年2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年10月31日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14人, 非常勤 1人, 常勤換算 14人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての	1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	17,000~22,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(3月12日現在)

利用者人数	17名	男性	5名	女性	12名
要介護1	3	要介護2	9		
要介護3	4	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 81.5歳	最低	65歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石狩病院・花川病院・宮の沢ファミリークリニック・フジイ歯科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は窓が多く設置され、全体的に明るい雰囲気有しており、「ゆっくり・一緒に・楽しく」の理念を基に利用者と職員がともに生活している。町内会の行事に利用者が積極的に参加したり、近隣小学校の児童達による事業所来訪など、地域との交流を深めている。また、看護師の配置により、利用者の適切な健康管理を行ったり、調理師の資格を持つ職員により栄養バランスの摂れた食事を提供するなど、利用者の健康状態に配慮した支援を実践している。今後も系列事業所と密なる連携を図り、地域と交流を深めながら利用者がその人らしく生活することが期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題については、施設長が中心となって検討し、改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で項目ごとに検討し、話し合いを重ね自己評価を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を開催し、利用者の生活状況・事業所の運営状況・事故やヒヤリハット等について報告し、意見交換を行っている。また、そこで出た意見を職員間で協議し、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	事業所内に意見箱を設置するとともに家族の来訪時に職員は声かけをし、家族が意見等を伝えやすい工夫をしている。また、意見等を受けた場合は職員間で検討し、情報を共有しながら改善に向けて取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内の祭り・クリーン作戦・防災訓練など、地域の行事や活動に積極的に参加している。また、近隣の公園で子供たちと接するなど、地域との交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	各ユニットごとに職員間で話し合い、地域において暮らし続けることを支えていくサービスとして、独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、理念を記載したネームプレートを常時携帯しており、確認しながら日々その実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の祭り・クリーン作戦・防災訓練など、地域の行事や活動に積極的に参加し、地域との連携強化を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で項目ごとに検討し、話し合いを重ねながら自己評価に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、事業所の運営状況や利用者の生活状況等についての報告、意見交換を行い、地域との連携強化を図っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内で実施している会議に出席したり、相談・報告等で日常的に行政と連絡を取っており、ともにサービスの質向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の写真など日常生活の様子を盛りこんだ事業所便りをユニットごとに発行し、家族に送付している。また、金銭管理や個別連絡について付け加え、家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置するとともに、家族の面会時には職員と気軽に話し合えるよう配慮している。また、意見等を受けた場合は職員間で情報を共有し、改善に向けて取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初から職員交代が多く、異動もある状況である。	○	今後は、職員の異動・離職等が最小限となるよう努め、利用者との馴染みの関係を継続するよう取り組むことが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内部・外部の研修に参加する機会を設け、職員の資質向上に取り組んでいる。また、ターミナルケアについて看護師を招いて研修を実施するなど、スキルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣に同法人の事業所があり、日常的に交流を図っており、合同で職員研修や行事等を実施し、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前見学や話し合いを重ね、利用者が徐々に事業所の雰囲気馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から学ぶ姿勢を大切に、調理などの家事を教えてもらいながら、支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や暮らし方等から一人ひとりの希望・意向の把握に努め、家族から情報を得ながらその人らしい暮らしとなるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者1人に対し、職員2名の担当制を取り、毎月の会議において日々の気付き等を確認し、全職員で話し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。また、利用者の状態変化に応じてそのつど検討し、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人・家族の希望に応じて、通院時の送迎や美容室への付き添いなど、柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医への受診支援を行っている。また、医師と連携を取り、利用者の健康状態について気軽に相談できる体制を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用時に「重度化した場合の対応に関わる指針」について同意書を交わし、職員間で情報を共有し、確認しながら適切に対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねることのないよう、声かけや対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調を考慮し、一人ひとりの個別性を大切にした支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に応じ、調理・配膳・茶碗拭きなどを職員と一緒にいき、利用者にとって食事が楽しみとなるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせ、週に2回以上の入浴支援を行っている。また、浴槽は三方から介助できる造りとなっており、利用者が寛いで入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴に合わせ、調理・掃除・洗濯物たたみ・畑作業など、一人ひとりの力に応じた役割や楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣にある公園への散歩など、日常的に外出できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には、鍵をかけず人の出入りが把握できるような工夫をしておき、利用者が自由に外出できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得ながら、年に2回避難訓練を実施するとともに、マニュアルを作成し、記録も整理している。しかし、緊急時に地域から協力が得られるよう働きかけるまでには至っていない。	○	今後は、運営推進会議等を通じ、地域から協力が得られるよう働きかけることが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は食事・水分摂取量を把握し、一人ひとりの健康状態に応じて支援している。また、専門業者が作成した献立を参考にし、利用者の嗜好を考慮した食事提供を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と食堂は分離しており、利用者が使いやすい造りになっている。また、居間には自由に配置換えが可能な畳の小上がりを設置し、利用者が寛いで過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台・トイレ・ロッカーが設置され、プライバシーに配慮するとともに、本人が安心して過ごせるような個性的でその人らしい空間となっている。		

※  は、重点項目。